

# 頑張れ店長

## 反転攻勢といきたいが

今年1年の行方を占う正月商戦。昨年は大震災とそれに続く節電、輪番休業などで業界も多大な影響を受けただけに反転攻勢といきたいところですが、実際はどうだったのか、各地の店長さんに聞きました。総じて樂觀できない状況ですが、ところによっては希望の光が差したところもあるようです。

### 正月終わるとガクン

「年末年始は久々に集客でできました。売り上げは昨年並みでしたが、正月気分が抜けるとガクンと下がってしまいました。昨年からの傾向ですが、平日は前年比で1〜2割減といった低迷が続いています。周辺点調査でも似たような数字が出ているので、少なくともうちの地域は市場縮小傾向が続いています。これを一発逆転するには、新規客を取り込めるだけの爆発的な人気機種種の登場を願うしかありません。メーカーさんに心から期待しています！」（中部・A店長）

昨年の大震災を機に顔を見せなくなった常連さんが少なくないとA店長は付け加えます。「例年なら年末年始は黙っていてもお客様が足を運んでくださるので粗利も上がるのですが、今年はその店も競うように開放してお客様を奪い合うという感じで、うちも出血大サービスでした。おかげで集客は昨年を若干上回る大健闘でしたが、いつまでも赤字を続けられないので、悩んでいます」（関東・B店長）

稼働率を上げるのか、それとも粗利を上げるのか、店長さんにとって究極の選択です。「戻ってきたお客様」

「今年の正月商戦は連日好調で、空き台を待つお客様も出ました。売り上げは昨年に比べて10%増といったところ。スタッフにも大入り袋を出しました。昨年の大震災以降、足が遠のいていたお客様がようやく戻ってきた感じです。年

が明けると気分も変わるのでしょうか。パチスロが底底から回復してきたこともあり、今年は復調の年になると期待しています」（中部・C店長）

客商売には波があります。谷に当たるときはどんなに頑張っても売り上げを伸ばすことはできませんが、山を迎えると大した努力をしなくても集客できてしまう。C店長の店は今年、そんな山を迎えるのでしょうか。その一方でこんな店もありました。

### 「冬」に耐えられる体質

「今年は厳しい正月商戦でした。いつもなら満席で空き台を待つお客様が出るのに、ついに満席にはなりません。うちの店だけでなく、近隣の店舗も同じような状況でした。それでも粗利を例年並みに確保したのでホッとしています。いつまでも続けられる手法ではありません。自分はい慢の営業を続けるしかありませんが、目先の数字に一喜一憂せず、冬の

## 店長の投書

昨年、マカオに行ってカジノを体験してきました。ま

たく個人的な旅行なのですが、もし将来、日本

でカジノが解禁されたら、ホール業界は大きな影響を受

けるでしょうし、そのとき私は指をくわえて見ていたくないか

らです。製紙会社の御曹司のような軍資金がないため細々と遊びま

だという雰囲気でした。ルーレットやパカラもやりましたが、仕事で馴染み

があるのでスロットをよく回

しました。そこにアルゼ製と

書かれたスロットが置いてあ

たのには驚きました。ホールの

パチスロのように長時間かじり

ついている人は少なく、飽きたらルーレットで遊んで、しば

らくしたら戻ってきてスロットをやるという感じです。ホールの仕事にも参考になる

ので、機会があったらカジノで遊んでみてはいかがでしょうか。（関東・店長）

## マカオで遊んだ 異次元の雰囲気 勉強になります

### 今年気分一新の感

「正月商戦の売り上げは前年の5%減くらいでした。それでも

時代に耐えられる体質を持った店づくりをしたいと思います」（中国・D店長）

具体的には、各台計数機を導入するなどして省力化を図り、スタッフ一人一人の戦力を高め、少数で運営できる店にするそうです。



## 業界の総付景品ガイドライン 風営法で現金や証券はダメ 上限も200円以下の物品に

ホールが来店客に対して提供する総付景品に関するガイドラインが全日遊連など5団体が策定し、昨年11月から実施されています。遊技をしなくても来店したお客様にもれなく提供する景品は、景品表示法で「総付景品」と呼んでいます。

景品表示法は、一般消費者による自主的、合理的な選択を阻害するおそれのある行為を制限したり禁止して、具体的なことは公正取引委員会や消費者庁が告示などで定めています。それによると取引価額が1000円未満なら総付景品の上限は200円、取引価額が1000円以上なら上限は取引価額の10分の2としていますが、今回、業界のガイドラインは取引価額に関係なく200円以下としています。

また、一般的に現金や有価証券も総付景品として認められていますが、風営法でホールが玉やメダルと交換する景品に現金や有価証券を禁じていることから、ガイドラインは現金や有価証券を総付景品として提供することを認めていません。一般にはサービスの提供も認められていますが、ガイドラインは提供できるのは「菓子類」「飲料」「ティッシュその他の日用雑貨」（いずれも自店舗で景品として提供していないもの）に限っています。

総じてガイドラインは、景品表示法より厳しい制限を設けています。そしてガイドラインに違反した場合は、ホール団体が違反行為をしないよう企業を指導することになります。善良の風俗、正常な風俗環境、少年の健全な育成という風営法の精神にもとづいてガイドラインを適正に運用することが求められています。

（監修・日遊協顧問弁護士 堤義成、同 岩本康博）

昨年中盤のどん底から抜け出したことを実感しています。うちの若いスタッフに聞いても、昨年は震災以降、旅行をしたり大きな買い物をする気分じゃなかったけれど、今年は海外旅行をしたいし、我慢していた買い物をしたいと言います。パチンコファンもそんな気分なのかもしれません」（関東・E店長）

大震災から1年近くたって、そろそろ喪が明ける時期なのではないか。ところで、カジノ論議が出る一方、業界が抱える景品問題や景品問題を解決するには特別法しかないようですが、世間が業界に対して厳しい見方をしているの

「ホール企業の上場問題などは停滞したままです。業界のネックはやはり景品問題です。私としては、パチンコ税を払ってもいいから、特別立法で景品問題をクリアにしていた方がいいと思います。国としては税収が上がるし、業界も社会的に認知されて上場するホール企業も出てくるでしょう」（中部・A店長）

も事実です。そこで、風当たりを和らげるにはイメージアップを図る必要があるという店長さんの意見を紹介します。「私どものような中小ホールとしては、業界団体にパチンコ・パチスロのイメージをアップするCMを積極的に打ってほしいです。メーカーさんは新機種のテレビCMを盛んに流していますが、パチンコファンには通じて、パチンコ

### イメージアップPRを

をやらない人には何のCMだからかわからないでしょう。業界のイメージアップを図るには、パチンコをやらぬ人、パチンコが嫌いな人に対して訴える必要があります」（関東・B店長）

### トップ企業に期待したい

今年の正月、「戦うお正月女帝パチンコ対決！」というテレビ番組で、和田アキ子と黒柳徹子が獲得玉競争をして、一部で話題になりました。パチンコファンの芸能人は少なくないので、イメージアップに協力していただければいいと思います。「同業を持ち上げるのも変ですが、マルハンさんやダイナムさんといったトップ企業が業界のイメージを変えてくれることを期待しています。外食産業が認知されたのは全国展開したマクドナルドなど大手だったし、消費者金融のイメージを変えたのもプロミスやアコムといった大手でした。売上高が1兆円、2兆円という巨大ホール企業が現に存在し、社会的に認知されれば、業界に対する社会の見方が変わってくると思います」（関東・E店長）

業界が抱える課題も小さくありませんが、知恵を絞って先に進みたいものです。